

コア純益3期ぶり増

東濃信金、3月期決算

東濃信用金庫が15日発表
した2023年3月期決算
は、物件費の減少や有価証
券利息配当金、預け金利息
の増加が寄与し、本業のも
うけを示すコア業務純益が
前期比4・4%増の25億1
400万円と3期ぶりの増

益となった。

純利益は、有価証券売却
益の減少、固定資産処分
損の増加が響き前期比9・
9%減の15億600万円
で、2期ぶりの減益となっ
た。

期末預金残高は個人、公

金が伸び、2・9%増の1
兆2138億円。期末貸出
金残高は個人、企業向けが
増え、0・8%増の572
7億円。自己資本比率は16
・58%で0・26%低下した
ものの、国内基準の4%を
大きく上回り、高水準を維
持した。不良債権比率は0
・27%上昇し5・07%。
24年3月期予想は公表し
ていないが資金繰り支援や
ビジネスマッチング、人

材紹介に努め、期末預金
残高は1兆2290億円、
期末貸出金残高は580
0億円を見込む。本年度
中に蘇南支店(可児市)を
下恵土支店(同)の出張所
とする。

この日、多治見市虎溪山
町のとうしん学びの丘エー
ルで開いた通常総代会で、
理事の新任と退任が承認さ
れた。代表権のある会長を
退任した市原好二氏は「東
濃信金100周年の歴史の
ほんの一部だが無事役割を
果たし、理事長(加知康之
氏)にたすきを渡せたこと
をうれしく思う」とあいさ
つ、取引先や職員に謝意を
示した。相談役に就き、「金
融の世界での経験を生か
し、個人や企業経営者向け
セミナー、若手職員の教育
などでお役に立てれば」と
語った。(小森直人)